

深まる国際化への 対応を目指して

— 今、問われる「国際教養」 —

日時 平成15年10月18日(土)
● 13:00～16:00

場所 富山県民会館 3階304号室

入場
無料

平成16年度より、秋田県に国際教養大学が設立され、また早稲田大学にも国際教養学部が新設される中、富山国際大学も人文社会学部を国際教養学部へ改組します。これを機会に、これまでの外国語教育や国際理解教育のあり方を批判的に捉えて、新しい教育的視点から「国際教養教育」についての提言を行います。

■基調講演

講師 **中嶋 嶺雄氏** 〈国際教養大学学長(就任予定)〉

「国際社会の変動と日本の大学」

講師 **内田 勝一氏** 〈早稲田大学国際教養学部長(就任予定)〉

「国際教養:矛盾と緊張関係を内包した概念」
—早稲田大学国際教養学部のめざすもの—

■パネルディスカッション

パネリスト **中嶋 嶺雄氏** 国際教養大学学長(就任予定)
内田 勝一氏 早稲田大学国際教養学部長(就任予定)
水田 聖一 富山国際大学国際教養学部長(就任予定)

コーディネーター
田中 忠治 富山国際大学副学長

●お問い合わせ／富山国際大学人文社会学部 TEL.(076)483-8000 FAX.(076)483-8008

【主催】 富山国際大学 【共催】 北日本新聞社

● 講師・パネリスト略歴 ●

■ 中嶋 嶺雄 (なかじま みねお) 氏

1936年 長野県生まれ
1960年 東京外国語大学中国語科卒業
1965年 東京大学国際学修士、同社会学博士
1977年 東京外国語大学教授、オーストラリア国立大学客員教授
1995年 東京外国語大学学長
現 職 国際社会学者、東京外国語大学名誉教授
アジア太平洋大学交流機構(UMAP)国際事務総長
文部科学省中央教育審議会委員(大学院部会長)
財団法人大学セミナー・ハウス理事長・館長
北九州市立大学大学院教授

■ 内田 勝一 (うちだ かついち) 氏

1946年 東京生まれ
1970年 早稲田大学法学部卒業
1979年 ロンドン大学高等法学研究所客員研究員
1984年 早稲田大学法学部教授
1986年 カラマズーカレッジ客員教授
1994年 日本学術会議第16期第2部会委員
1999年 早稲田大学国際教育センター所長・国際部部長
2003年 早稲田大学国際教養学部開設準備室長

■ 田中 忠治 (たなか ちゅうじ)

1930年 長野県生まれ
1953年 東京外国語大学第7部3類卒業
1961年 特殊法人アジア経済研究所入所
1963年 タイ国立タマサート大学大学院留学
1972年 東京外国語大学タイ語学科教授
1993年 東京外国語大学名誉教授、富山国際大学教授
1996年 富山国際大学人文学部長
2000年 富山国際大学地域学部長
2002年 富山国際大学副学長

■ 水田 聖一 (みづた せいいち)

1954年 大阪生まれ
1979年 大阪教育大学教育学部卒業
1986年 大阪市立大学大学院文学研究科 後期博士課程単位取得退学
2001年 富山国際大学教授
2003年 富山国際大学人文社会学部長

深まる国際化への 対応を目指して

— 今、問われる「国際教養」 —

日 時 平成15年10月18日(土) 13:00~16:00

場 所 富山県民会館(3階) 304号室

プログラム

13:00	開 会	水田 聖一	富山国際大学国際教養学部長(就任予定)
13:05	挨拶	金岡 祐一	富山国際学園理事長・富山国際大学学長
13:15	基調講演	中嶋 嶺雄 氏	国際教養大学学長(就任予定) 「国際社会の変動と日本の大学」
14:00	基調講演	内田 勝一 氏	早稲田大学国際教養学部長(就任予定) 「国際教養:矛盾と緊張関係を内包した概念」 —早稲田大学国際教養学部の目指すもの—
14:45	休 憩		
15:00	パネル・ディスカッション (パネリスト)	中嶋 嶺雄 氏 内田 勝一 氏 水田 聖一	国際教養大学学長(就任予定) 早稲田大学国際教養学部長(就任予定) 富山国際大学国際教養学部長(就任予定)
	(コーディネーター)	田中 忠治	富山国際大学副学長
15:45	質疑応答		
16:00	閉 会	田中 忠治	富山国際大学副学長

国際社会の変動と日本の大学

《 中嶋 嶺雄 氏 (国際教養大学学長(就任予定)) 》

講演内容

- 1 「国際化」と「アイデンティティ」
- 2 地域研究の可能性と限界
- 3 国際関係論から国際社会学へ
- 4 外国語教育の問題点と日本の大学
- 5 なぜ今「国際教養」か
- 6 富山国際大学への期待

【参考文献】

- 中嶋嶺雄 著 「国際社会の変動と大学—あえて学問の有効性を問う—」
(東京外国語大学最終講義)、『諸君!』(2002年1月号)
- 同 「これでよいのか、日本の大学」
(日下公人ほか、『今、日本の大学をどうするか』(自由国民社、2003年))
- 同 『国際関係論—同時代史への羅針盤—』(中公新書、1992年)

国際教養大学 (Akita International University)

《学長メッセージ》より

大きく変動している国際社会の中で、日本は経済大国として十分な存在感をアピールできていくでしょうか。

グローバルな知の大競争時代に、日本の大学はどれだけ国際競争力をもっているでしょうか。このような危機意識を克服するためにも、これからの日本にとって一番大切なことは、国際社会で十分活躍できる人材を養成することだと思います。

私は、国際教養大学をグローバル化の時代に対応した“現代の松下村塾”にしたいと考えています。世界の変動を広い視野でとらえ、国境を越えた公共心を身につけて、何よりも知的世界において国際社会のリーダーシップをとれる人材を育てたい。そんな思いを国際教養大学の教育に込めています。

世界から集まった優秀な教授陣がすべての授業を英語で提供する、全員が海外留学を体験する、徹底した少人数教育を行うなど、従来の日本の大学にはない特徴を持った少数精鋭の大学です。この大学で学んだ学生は、世界に通用する教養と専門知識をしっかり身につけた国際人(Global Citizens)として、国際的な場面で英語で堂々と語ることが必ずできるようになります。

広大な緑の森の中に誕生する新しいキャンパスは、多くの外国人教員、留学生が集う日常的な異文化空間となり、学生諸君は多様な価値観との出会いの中で、本当の自分を見つけ、大きく成長できるでしょう。

このような国際教養大学は、21世紀の日本の大学教育を変えるパイオニア的な役割を担うことができるものと確信しています。

国際教養：矛盾と緊張関係を内包した概念

—早稲田大学国際教養学部をめざすもの—

《 内田 勝一 氏 (早稲田大学国際教養学部長(就任予定)) 》

講演内容

1. 早稲田大学国際教養学部は何を目指すのか
 - (1) 「国際教養」学部は「教養」という用語に積極的な意義
 - ・1990年代以降の大学改革、学部教育における専門重視への批判的スタンス
 - ・国際と教養との関係は、国際教養学という学問分野が成立しているのか、という疑問
 - (2) 国際教養の構成要素を分析して考えてみる
 - ①「志」を持つ学生の育成
 - ・地球規模の問題状況(環境・食料・人口・戦争・平和)
 - ・グローバル化した社会・経済の光と陰
 - ・多様な文化の共存(国際社会・国内社会)
 - ②現代的な教養の重要性
 - ・幅広い分野の知識と先端的・学際的領域への関心
 - ・大学院における専門的教育の基盤づくり
 - ③共通語としての英語
 - ・世界に自分の考えを発信する手段としての英語
 - ・英語を手段とすることで大学を世界に開く
 - ・世界中から学生・教員がくることができる
 - ・大学教育・研究の国際競争力を向上させる
 - ④多文化主義
 - ・特定の地域・文化・言語への関心と外国語の重要性
2. 国際教養学部内に内在する緊張関係・矛盾をどのようにして解決するのか
 - (1) 「国際教養」学部は「学問」ではなく「組織」として存在
 - ・国際教養「学部」は現代の学生に必要な能力を養う「場所」である
 - (2) 国際(全地球的)と教養という異なる概念が存在している
 - ・併存しているのか
 - ・どのようにして緊張関係を内包しつつも統合されているという状況を作ることができるのか
 - (3) 教養教育か、科目群に分かれた専門分野の教育か
 - ・幅広く教養を学ぶなかで将来の職業選択との関係で特定の専門分野に関心を持つ
 - ・その希望に答える必要がある
 - ・全体的なバランスある教養を志しつつも、ある分野への集中は必然的である
 - ・ではこれは教養教育の深化か専門教育の導入部分なのか
 - (4) 現代的な教養教育と地域研究との関係は
 - ・日本を学ぶために日本の大学に来る
 - ・日本研究が重要な意味を持つ(国内生にも国外生にも)
 - ・どのように関連しているか
 - (5) 現代的な教養教育と英語力との関係は
 - ・現代的な教養の中には英語力・外国語能力が含まれる
 - ・両者はどう関係しているのか
 - ・入学試験は英語力、基本的な思考力のいずれを重視するのか
 - (6) 現代的な教養にはなにが含まれるのか
 - ・アメリカの大学におけるリベラルアーツ教育はギリシャ以来の古典を学ぶ
 - ・西欧中心主義という批判
 - ・日本的あるいは東洋的な古典を学ぶ
 - ・儒教文化圏という発想は可能なのか
 - (7) 大規模研究大学における教養教育のあり方はどのようなものか
 - ・小規模のリベラルアーツ大学での試みは成功してきたが、大規模研究型総合型大学ではそうではない
 - ・教員の研究志向
 - ・大学の制度全体が研究重視・教育軽視という状況にある
 - ・教育を重視するシステムをどのようにして作ることができるか

《富山国際大学》

「国際教養学部国際コミュニケーション学科」 が目指すもの

1. 「国際教養学部」への改組再編

富山国際大学は、人間形成に必要な知識とその応用を意味する「人文学」の理念を継承しつつ、世界のグローバル化・地域の国際化に対応して、国際貢献のみならず国際的な視野から地域貢献にも資する人材、すなわち「真の国際人」の育成を目指して、これまでの「人文社会学部人文社会学科」を「国際教養学部国際コミュニケーション学科」に改組することに致しました。

2. 富山国際大学国際教養学部が目指すもの

真の国際人に必要なものは国際教養であり、それは幅広いコミュニケーション能力と国際人としての素養を身につけることであると考えます。

そのためには、まず①言葉(外国語・日本語)を知り、②相手(外国の社会と文化)を知り、③広く人間と社会の関わり方を学び、国際人としての素養(国際的に活躍できる識見、国際感覚と、外国人に接して恥じない人格)を高めることが必要です。

そこで、わが大学の国際教養学部では、外国語習得、異文化理解、人間理解を中心に教養教育を重視して、幅広いコミュニケーション能力を磨き、国際人としての素養を高めることを目指します。

3. 国際教養学部の構成

国際教養学部では、「国際コミュニケーション学科」の下に「外国語専攻」と「国際交流専攻」の二つの専攻を置きます。

「外国語専攻」は、「英語コミュニケーション・コース」と「中国語コミュニケーション・コース」の二つのコースから成り、実践的な英語・中国語コミュニケーション能力の育成を目指します。

「国際交流専攻」は、「異文化理解コース」と「人間理解コース」の二つのコースから構成され、異文化理解と人間理解に重点を置いたコミュニケーション能力の育成に努めます。

勿論、二つの専攻は「車の両輪」ですので、三つの柱すべてにわたって学習することが出来ます。

4. 各コースの特徴

(1) 英語コミュニケーション・コース

英語コミュニケーション・コースでは、卒業時にTOEIC730点、TOEFL550点、英検準1級以上の能力を備えることを目標にしています。これは文部科学省が推進している「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」でこれからの英語教員に求められる水準です。これを実現するために、

- ① 入学時に、英検準2級程度以上の語学力を要求します。
- ② このコースの授業は積み上げ式で構成され、すべて英語で行います。
- ③ 毎年、英語力をチェックし、習熟度別クラス編成により、レベルにあった指導を行います。
- ④ 同コース専用の留学プログラムを用意し、2年次後期に実施します。

(2) 中国語コミュニケーション・コース

中国語コミュニケーション・コースは、英語コミュニケーション・コースとまったく同じコンセプトでカリキュラムや授業内容・方法、留学制度等を設計してあります。

(3) 異文化理解コース

異文化理解コースでは、世界の主な地域の歴史・文化・言語を縦軸に、社会科学系の国際関連科目を横軸にカリキュラムが設計されています。このコースは、世界の国々・地域について深く勉強したい学生、あるいは国際的な視野から政治・経済・ビジネス・法律等について学びたい学生双方に対応しています。

(4) 人間理解コース

人間理解コースは、心理学や社会学を初めコミュニケーションや人間関係、表現技法等に関する授業からなり、人間形成の基礎、コミュニケーション能力の基礎を固めることを目指しています。特に将来、福祉関係、労務関係、教職等を目指す学生に、基礎的な専門知識を提供するカリキュラム設計になっています。